

平成 26 年度ごみ排出量等の見込みについて

- H26. 4 月～12 月の実績から H26 年度の年間見込量を推計した結果は次のとおり。
 (なお、端数処理の関係により、表・図中の合計、差分の数値が一致しない場合がある。)

項 目	H26 年間見込量	H25 実績	増減
①ごみ総排出量	321 千 t	338, 903 t	▲18 千 t (▲5. 3%)
家庭系	209 千 t	211, 282 t	▲2 千 t (▲1. 2%)
事業系	112 千 t	127, 621 t	▲16 千 t (▲12. 2%)
②清掃工場搬入量	277 千 t	293, 175 t	▲16 千 t (▲5. 6%)
家庭系	168 千 t	169, 308 t	▲1 千 t (▲0. 5%)
事業系	108 千 t	123, 867 t	▲16 千 t (▲12. 5%)
許可業者・継続ごみ・一般事業系直接搬入	103 千 t	118, 214 t	▲15 千 t (▲13. 0%)
環境美化ごみ・公共事業系直接搬入	5. 5 千 t	5, 653 t	▲0. 1 千 t (▲1. 9%)
③リサイクル量 ^{※1}	58 千 t	60, 675 t	▲2 千 t (▲3. 8%)
分別収集品目	12 千 t	12, 469 t	▲0. 3 千 t (▲2. 2%)
集団回収量	28 千 t	29, 195 t	▲1 千 t (▲4. 9%)
溶融スラグ・メタル	14 千 t	14, 991 t	▲1 千 t (▲3. 9%)
その他 ^{※2}	4 千 t	4, 020 t	—
(リサイクル率 ^{※3})	18. 2%	17. 8%	0. 4% ↑
④最終処分量 ^{※4}	29 千 t	33, 444 t	▲5 千 t (▲13. 8%)

※1 事業系自主資源化量は含んでいない

※2 剪定枝、庁内古紙、破碎施設からの鉄分回収であり、H25 と同量と仮定

※3 H26 見込みは、ごみ総排出量ベースで算出 (H25 実績は実処理量ベース)

※4 直接埋立ごみ (瓦礫・ブロック等) は、H25 と同量と仮定

- 家庭系ごみ排出量については、生活ごみ、粗大ごみ、分別収集品目の収集量が若干減少、直接搬入量が若干増加し、全体としては若干の減少。
⇒ 要因としては、誤差の範囲内とも考えられるが、消費増税による消費落ち込みの影響を受けている可能性もある。
- 事業系ごみ排出量については、「継続ごみ、許可業者、一般事業系直接搬入」が大きく減少し、「環境美化ごみ、公共事業系直接搬入」に関してはほぼ横ばい。
⇒ 平成 26 年 10 月に施行した併せ産廃の搬入禁止による効果が表れているものと考えられる。

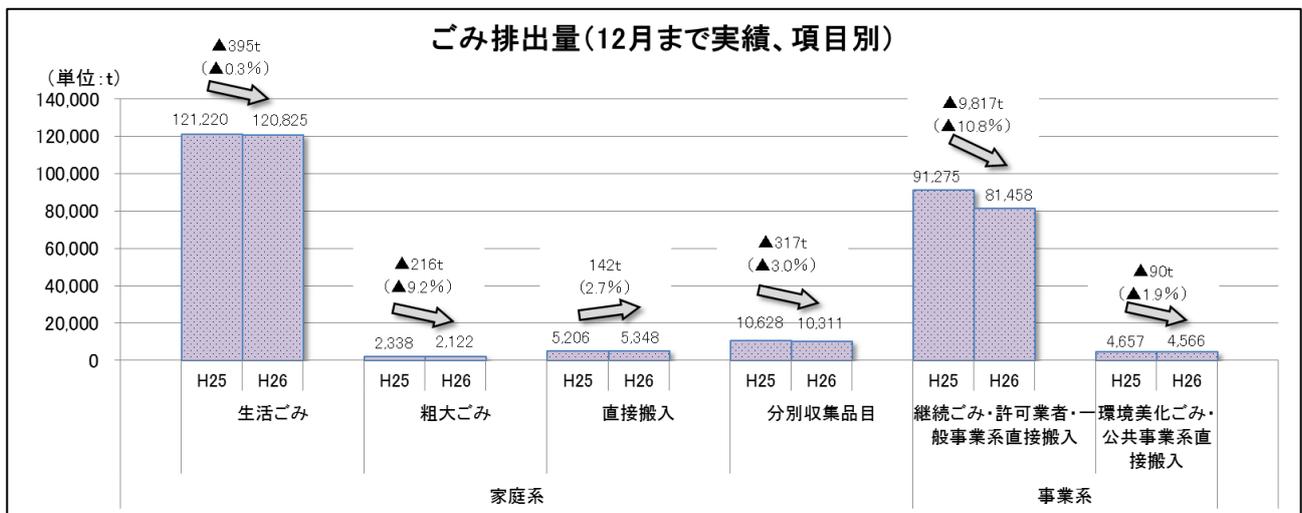


図 1-1 ごみ排出量 (項目別)

- 分別収集品目を品目別に見ると、古紙を除くすべての品目で収集量は減少している。

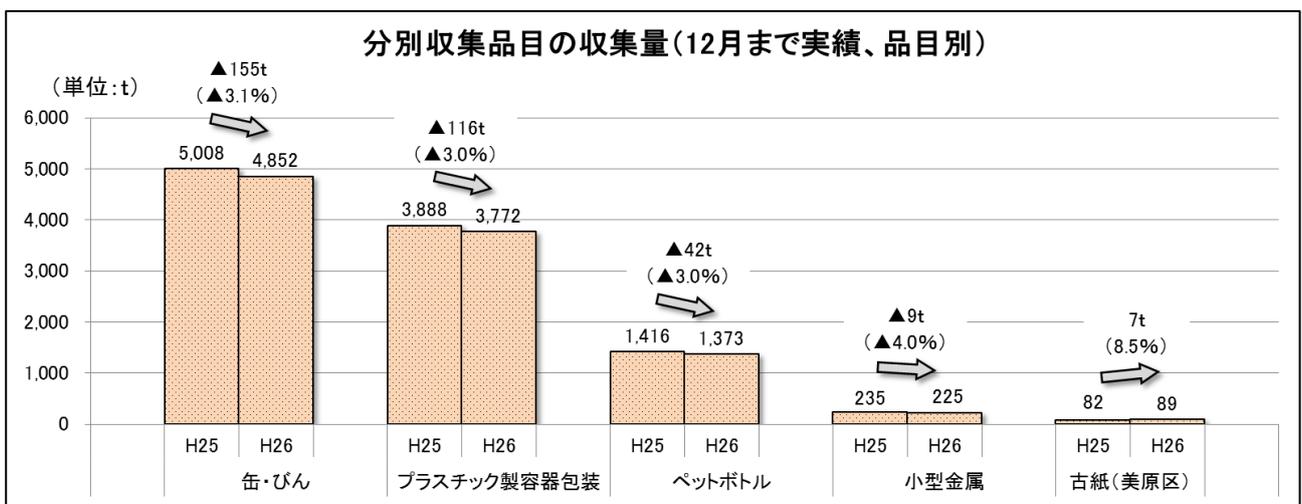


図 1-2 分別収集品目の収集量 (品目別)

- 集団回収量を品目別に見ると、特に新聞の回収量が大きく減少している。
- ⇒ 新聞発行部数の減少等の影響を受けているものと考えられる。

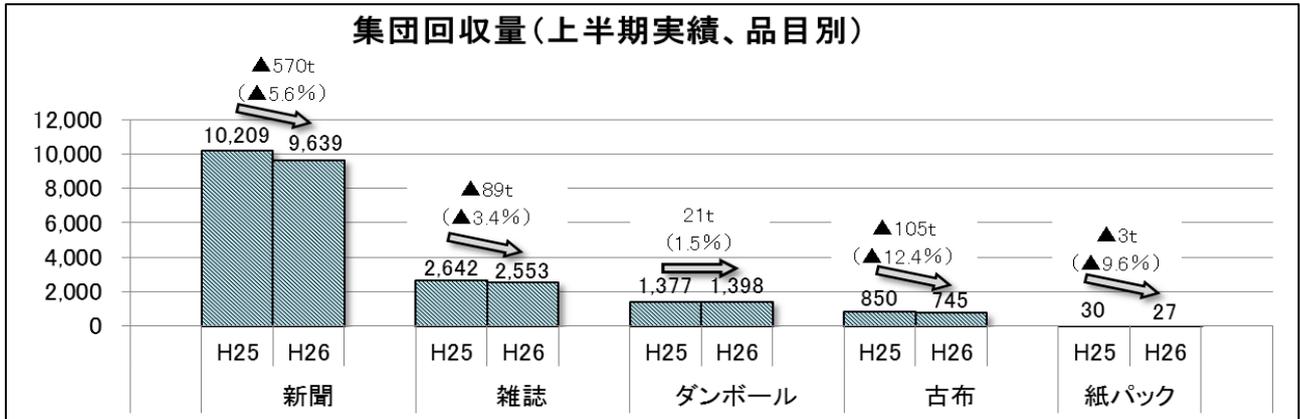


図 1-3 集団回収量 (品目別)

- 清掃工場搬入量を月別に見ると、家庭系については多くの月で減少、事業系については10月以降大きく減少しているが、5月頃から減少が見られる。
- ⇒ 併せ産廃搬入禁止の事前指導による効果が早期段階から表れているものと考えられる。

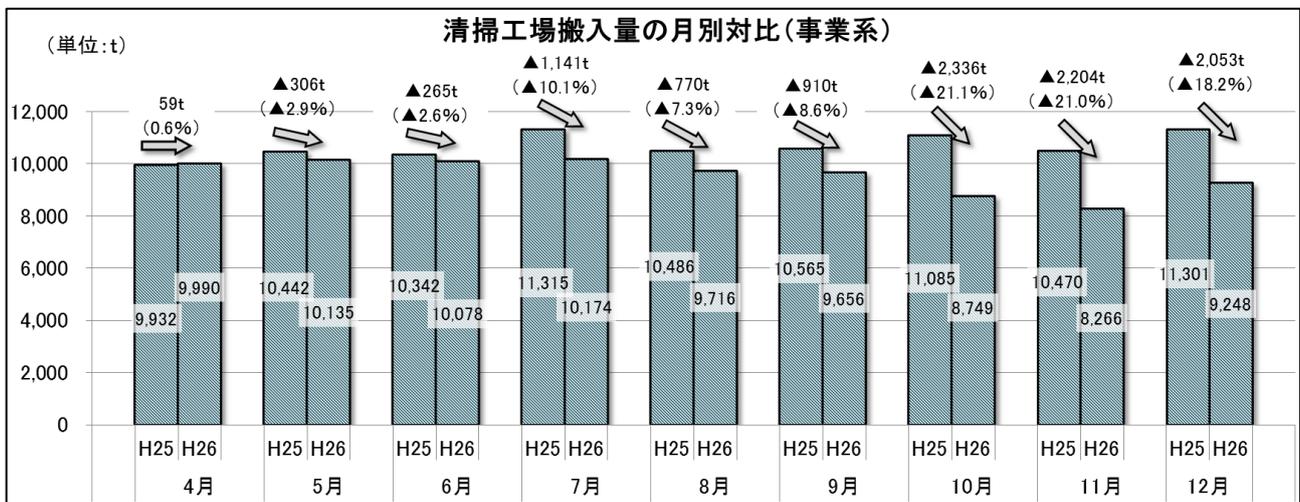
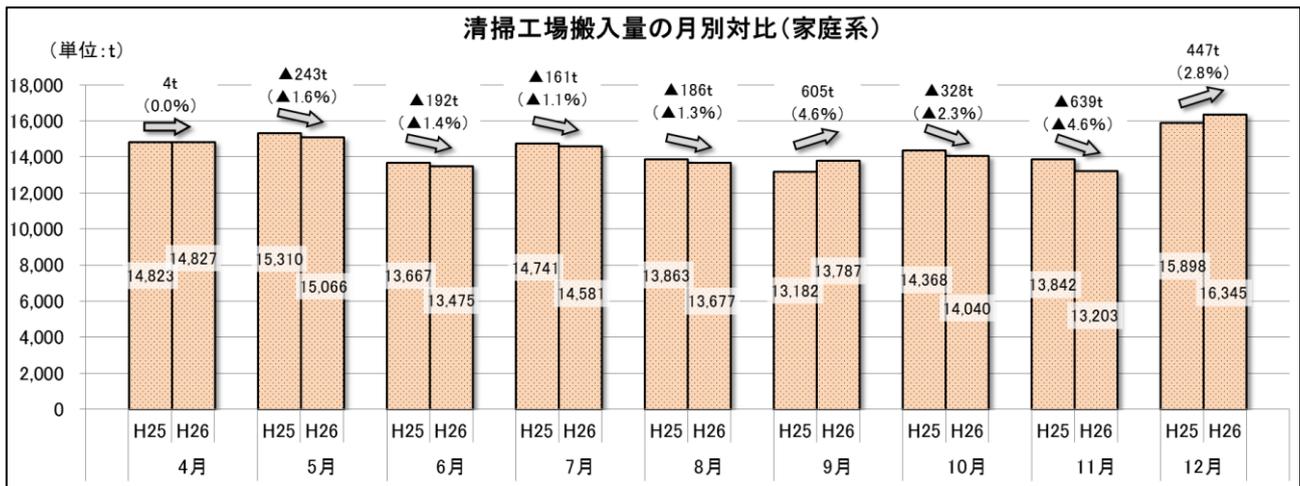


図 1-4 清掃工場搬入量 (月別対比)

【参考：H26 見込み値算定の考え方】

① 家庭系ごみ排出量

＜集団回収以外（生活ごみ・粗大ごみ・直接搬入・分別収集品目）＞

- ・品目ごとに4月～12月の平均増減率を求め、H25年度実績に乗じて算定

＜集団回収量＞

- ・上半期の実績から増減率を求め、H25年度実績に乗じて算定

② 事業系ごみ排出量

＜許可業者、継続ごみ、一般事業系直接搬入＞

- ・4月～12月については実績通り
- ・1月～3月については、10月～12月の平均増減率を求め、H26.1月～3月実績に乗じて算定

＜環境美化ごみ、公共事業系直接搬入＞

- ・4月～12月の平均増減率を求め、H25年度実績に乗じて算定

＜剪定枝、庁内古紙、直接埋立＞

- ・H25実績と同量と仮定

③ 清掃工場搬入量

＜家庭系（生活ごみ、粗大ごみ、直接搬入、資源残渣）＞

- ・4月～12月の平均増減率を求め、H25年度実績に乗じて算定

＜事業系（許可業者、継続ごみ、一般事業系直接搬入）＞

- ・4月～12月については実績通り
- ・H27.1月～3月については、10月～12月の平均増減率をH26.1月～3月実績に乗じて算定

④ リサイクル量

＜分別収集品目＞

- ・品目ごとに4月～12月の平均増減率を求め、H25年度実績に乗じて算定

＜剪定枝、庁内古紙、破砕からの鉄回収、溶融スラグ・メタル＞

- ・H25年度実績と同量と仮定

※リサイクル率は、処理量ではなく排出量ベースで算定

⑤ 最終処分量

＜焼却灰＞

- ・4月～12月の平均増減率を求め、H25年度実績に乗じて算定

＜直接埋立＞

- ・H25年度実績と同量と仮定